

清水路にランナーが集結



2月12日、3年振りに清水山ロードレース大会が開催され、全国から約600人が参加しました。快晴の下、沿道からの声援を受けて選手たちは力走。本大会は、50回目を迎えた今回が最後の開催となり、半世紀の歴史に幕を閉じました。

カビから1年の天候や作柄などを占う



2月15日、江浦八幡神社で「粥占御試祭」(市指定無形民俗文化財)が行われました。元旦に奉納された米を1月15日にお粥にして、1か月安置し、発生したカビでその年の気象などを占います。今年は「雨や台風による被害は少なく、作柄は平年並み」とのことです。

あいさつで明るいまちづくり



2月11日、まいピア高田でみやま市あいさつ日本一運動市民大会が開催されました。大会では同運動推進委員会の取り組みが紹介され、小学生あいさつ学校チャンピオンや、あいさつ標語最優秀者の表彰などが行われました。

福井県の越前町を訪問しました



1月20日から22日、市内の小学5・6年生13人が、幸若舞発祥の地である越前町を3年ぶりに訪問しました。児童たちは昨年11月に本市で交流していた越前町の児童たちと再会し、ユニホック体験や宗生流幸若舞などを鑑賞。お互いの歴史や文化を学びました。

「ふくおか教育マイスター」に認定



2月8日、瀬高小教諭の重松るり子さん(左)と清水小教諭の塚本美弥さんが、福岡県公立学校教育マイスター表彰の受賞を教育長に報告しました。2人は「学んだことを生かして、困っている先生を支えたい」「これまで培った経験を還元したい」と今後の抱負を述べられました。

みやま市の道を考え、守る



2月10日、5団体2企業が加入する「道守みやまネットワーク」が発足しました。河野理恵代表は「私たちは、道と共に生活し、経済を発展させてきました。市民の皆さんからのご協力のもと、いつ通っても綺麗で、気持ちのいい道を維持していきます」とあいさつされました。

新たに15人がみやま市の防災士に登録



2月17日、みやま市防災士登録証交付式が行われ、新たに15人が市の防災士として登録されました。防災士の皆さんは防災意識の啓発などを通して、地域防災力の向上に取り組みます。

【前列左から】野田 幸恵さん(大江)、三小田 佐貴子さん(清水)、板橋 敏夫さん(上庄)、松嶋市長、大坪 絹枝さん(二川)、奥蘭 由美子さん(江浦)、紫牟田 一彦さん(南)
【後列左から】武藤 勝博さん(江浦)、椿原 時子さん(山川東部)、田中 順一さん(二川)、千井 庸衛さん(上庄)、具嶋 芳明さん(上庄)、鶴木 茂行さん(二川)、塚本 明博さん(二川)、藤木 大輔さん(上庄)
【欠席】今村 吉彦さん(清水)

消防ヘリコプターとの救助訓練を実施



2月9日、市消防本部と福岡市消防局消防航空隊との相互連携訓練が行われました。訓練は、車道が寸断された清水山での救助を想定し、ヘリコプターで要救助者を市消防本部まで搬送。航空隊と連携し、搬送が困難な場所での救助について確認しました。

木材や工具に触れ、ものづくりを体験



1月28日、瀬高小学校で同校放課後児童クラブの児童を対象に「こども大工教室」が行われました。「人にやさしい家を考える会」の大工の皆さんから指導を受け、オリジナルの椅子を製作。児童からは「のこぎりで木を切るのが楽しかった」などの感想が聞かれました。

8年間の集大成を披露



1月29日から2月6日まで、片山美智子さん(高田町)が義父の介護の傍ら、8年間描き続けたアクリル画42点を展示する「等身大の自分」展が、まいピア高田で行われました。片山さんは「原色を重ねて、差し込む光や風景からのイメージなどを表現しました」と話されました。

新進気鋭の芸術家から油絵を学ぶ



1月26日と29日、興格優護さんが講師を務めるワークショップが九州芸文館(筑後市)で行われました。興格さんは旧上庄小学校を拠点に行われた、福岡県の芸術教育成事業に参加しているアーティスト。各回約10人が参加し、油絵の制作を体験しました。